

台湾から恩師を訪ねて

盛田稔理事長と台湾

盛田稔理事長は戦中、陸軍主計大尉に昇進後、支那大陸に進軍せよ」と命が下り中国本土へ。天津、漢口など各地を転戦しますが現地で敗戦を迎え、嘉魚という町で俘虜（ふりよ）捕虜（とら）の生活を送ります。現地市民とも友好関係を築いていた折、台湾の蒋介石総統の温情・支援があり無事日本へ帰国。その時から台湾に感謝の念を持つようになり、蒋介石第五任総統就任式典に参列したり、台湾の要人と関係を持つようになるなど、台湾との繋がりを深めていきます。実に二十回以上台湾を訪問し、青森大学に留学生を受け入れるなど、その付き合いは長年続いています。



前列右から時計回りに、理事長、理事長夫人、謝明良氏の奥様・李月桂さん、盛田施設長、謝明良氏

国立台湾大学教授・謝明良氏来荘

ジャ・ミンリヤン

美土里会

2019 年 1 月
第 72 号
社会福祉法人美土里会
青森県上北郡七戸町寒水 70-17
電話 0176(62)2761
<http://midorikai-gr.or.jp>

年の瀬も迫り来る平成三十年十二月十三日。当法人の盛田稔理事長のもとに、嬉しいお客様がいらつしやいました。国立台湾大学教授の、謝明良（ジャ・ミンリヤン）さんと奥様です。

実は謝さんは理事長の自慢の教え子の一人。理事長が青森大学の学長だった頃、縁あって台湾から受け入れた留学生の一人でした。青森大学では経済学を専攻。しかし、ふとしたことから謝さんが高校の頃から東洋陶磁器に興味を持っていたことを知り、その熱意に触れた理事長は、経済学の勉強はほどほどで良いから、好きな陶磁器の研究に励みなさい」と助言。良い先生を見つけ紹介するなど、その才能を伸ばすべく奔走しました。また謝さんは、青森大学卒業後は、成城大学の大学院に入り、シルクロード研究の第一人者・東山健吾先生の指導を受けた」と理事長に申し出ました。その並々ならぬ素質を知った理事長は、謝さんの論文を携えて東山先生を尋ねるなど、協力を惜しまず、謝さんは成城大学院に入学。勉学・研究に励み、見事博士課程まで卒業されました。

その後、台湾に戻った謝さんの活躍は目覚ましく、国立故宮博物院の学芸員となり、後に台湾大学教授兼東洋美術史研究所所長になられたほか、数多くの論文・書籍を発表。一時期は東京大学客員教授にもなり、現在は世界各国から講演を依頼されるなど、文字通り世界中を飛び回る生活を送られています。その多大な功績が認められ、台湾政府の「国士無双」という学術奨励賞を二度も受賞されるなど、まさに東洋陶磁器研究の第一人者として活躍されています。

このように世界中で活躍される謝さんですが、恩師である理事長との関係は変わらず続けられており、家族ぐるみでお付き合いをされているほど。数年に一度は日本を訪れ、折を見て七戸まで足を運んで下さっています。

今回は、理事長の奥様が九十九歳の誕生日を迎えられた事を機に、久しぶりに来日。恩師である理事長との再会を果たしました。

理事長は満面の笑顔で再会を喜び、あなたからもらった鳳凰木（ほうおうぼく）が大きくなりましたよ」「一緒に行った島の話を覚えていますか」など、思い出話に花を咲かせました。また、謝さんが成城大学の修士論文で同校初の満点を獲得した話題になると、優秀なのは最初から見抜いていたよ」と話し周囲を笑わせるなど、終始和やかな雰囲気でした。

最後に謝さんは、また来ます、それまでお元気で」と声をかけ、固い握手で約三十五分間の懇談を終えました。

多忙な身でありながら、昔を忘れず恩義ある理事長のもとを訪れた謝さんに、私たち職員一同も感銘を受けました。

謝さん、奥様、遠い所を来荘いただき、本当にありがとうございました。



特別養護老人ホーム美土里荘

平成三十年十一月十四日、町内の城南小学校六年生の児童が来荘され、ご利用者と交流しました。歌や楽器演奏のほか、城南太鼓を披露してください、七戸秋祭り」のまつり囃子を演奏した時は、ご利用者の皆さんは涙を流すほど感動していました（とても上手だったんですよ！）



その後は、子供達との交流タイム。じゃんけん大会を行ったり、手作りカードを頂いたり、終始笑顔がたえませんでした。城南小学校の皆様、ありがとうございました！



マリンバと歌声でご利用者を魅了

平成三十年十一月五日、七戸町出身のマリンバ奏者でシンガーソングライターの新谷祥子さんによるマリンバ演奏会を開催いたしました。新谷さんはマリンバを弾きながら歌うスタイルで、ロック・ポップス・民族歌謡などジャンルを超えて演奏、多くの著名アーティストともコラボされている方です。その多方面での活躍が認められ、平成二十九年には青森県文化賞を受賞されています。



美しい音色にうっとり

盛田稔理事長が過去に新谷さんの実家の歴史を『船木屋文書』として一冊の本にまとめており、二年前その本を手にした事で生家の歴史が判った新谷さん。そのお礼として今回の訪問演奏会が実現しました。当日は理事長はじめ多くのご利用者が集まり、マリンバの特徴的な音色に聞き入っていました。童謡などの懐かしいメロディが演奏されると、皆さんその音色に魅了されているように聞きました。新谷さん、ありがとうございました。



きっかけとなった『船木屋文書』

紹介！ キャリア教育の取り組み

職場体験・交流受け入れ



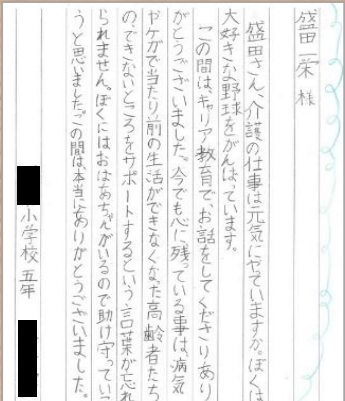
職業人講話



実習受け入れ



児童からのお礼状



青森県教育委員会より表彰

美土里会のキャリア教育支援の取組が評価

美土里会

美土里会の長年の取組が青森県から評価。こんな嬉しいニュースが飛び込んで来ました。
去る平成三十年十月十八日、美土里会は青森県教育委員会より「おももりキャリア教育応援企業表彰」を頂きました。

この日は青森市内で「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」が開催。その冒頭、県内子どもたちへのキャリア教育を積極的に行う企業の表彰が行われ、美土里会もその対象に。盛田一栄・施設統括監が代表して出席、表彰状を頂きました。

表彰式後は、ロビーにて被表彰企業と参加者とのパネル展示交流が行われました。美土里会の取組を紹介したパネルの前で参加者と交流する機会が設けられ、実習と職場見学と、どのように区別して指導していますか？とごに主眼を置いて介護の講話をされていますか？など積極的な質疑応答・意見交換が行われたほか、何名もの方にパネルに目を通して頂き、介護事業に対する関心の高さを垣間見たと思います。

その後は大正大学教授・浦崎太郎氏による『ま高校を地域に埋め戻すとき』と題した講演を聞きました。岐阜県立可児高校の教諭時代から高校キャリア教育と地域再生を一体的に推進しており、地域を巻き込んだキャリア教育の取組は非常に参考になる内容でした。

美土里会は、児童・生徒の職場見学や体験実習の受け入れ、学校に向向いの職業講話等を積極的に行って来ました。社会福祉法人として『当たり前前の事』として行っていたことが、このような思いがけない形で評価して頂いたことは本当に嬉しく、励みになるものでした。業界の後進の育成、地域の担い手の育成のため、今後も積極的にキャリア教育に取り組みます。地域の皆様、今まで関りのあった教育機関の皆様、ありがとうございました。

編集後記

歳を重ねるたびに一年経つのが早く感じます。昨年は自然災害が各地で猛威をふるい、清水寺での『災』という字が話題になりました。今年こそ良い一年になればいいですね。平成も四月で終わり、新しい時代が始まります。新天皇の誕生と消費税増税、来年には東京オリンピック・パラリンピックも開催となりめまぐるしい一年になりそうです。（戸）



グループホーム機

十二月二十八日、忘年会が行われました。二種類の鍋やお寿司、パンケーキ等を食べ、お菓子取りゲームをしたり歌を歌ったりして盛り上がりしました。ご利用者の表情も生き生きと忘年会を楽しみました。張り切り過ぎたのか、途中で少し体調が悪くなつてしまったご利用者もいましたが、大きな怪我や事故等なく無事に終わる事ができました。二〇一九年も張り切って行きましよう！



あつて好評でした。歌謡ショーやものまねショー、民族衣装での伝統舞踊などで会場は大盛り上がりとなりました。たくさんのご利用者から、『食べたり飲んだりしながら大笑いして、最高だった。』という言葉をお聞きしました。今後もこれを活かに職員と一緒に楽しめる行事を続けていきたいと思っています。



平成三十年十一月、毎年恒例の『敬老会（梓の会）』を開催しました。例年であればデイサービスを臨時休業し別会場での開催でしたが、ご利用者への負担軽減や入浴サービスの確保、何より全利用者に参加してもらいたいという思いから、今回は会場をデイサービスに変更し、通常利用の中で一週間通じての開催としました。もちろん会場は狭くなりましたが、ご利用者にとって狭くはなれた場所での開催である安心感や安全性の確保、そして目の前で職員の様々なアトラクションを見れると



デイサービスセンター梓

平成三十年十一月、毎年恒例の『敬老会（梓の会）』を開催しました。例年であればデイサービスを臨時休業し別会場での開催でしたが、ご利用者への負担軽減や入浴サービスの確保、何より全利用者に参加してもらいたいという思いから、今回は会場をデイサービスに変更し、通常利用の中で一週間通じての開催としました。もちろん会場は狭くなりましたが、ご利用者にとって狭くはなれた場所での開催である安心感や安全性の確保、そして目の前で職員の様々なアトラクションを見れると